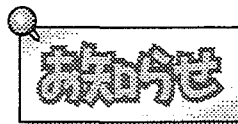


# 大学図書館問題研究会 京都

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学 企画調査課 田北十生気付  
(Tel) 075-574-4112 (Fax) 075-574-5141

## いよいよ開始！



### 大図研京都セミナー2001

「ネットワーク環境下における図書館サービス」

●ホームページからも参加申し込みができます！

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/occ.htm>

第1回 4月28日(土) 14:00-15:30 講演 15:40-17:00 質疑応答

湯浅俊彦氏(旭屋書店)「デジタル時代の出版メディア」

場所: キャンパスプラザ(JR京都駅前)

参加費: 1000円/1回(第5回を除く)

主催: 大学図書館問題研究会京都支部

セミナー終了後、懇親会(会費 5千円)

\* 第5回個人発表への申込み受付中！

第2回 5月26日(土) 谷口敏夫氏(光華女子大学)「電子図書館の評価」

第3回 6月23日(土)

大城善盛氏(同志社大学)「ネットワーク時代の情報リテラシー教育」

第4回 7月14日(土) 北克一氏(大阪市立大学)「メタデータと図書館」

第5回 8月4日(土) 大図研会員による個人発表3本 \*\*\*募集中\*\*\*

### 【お知らせ】

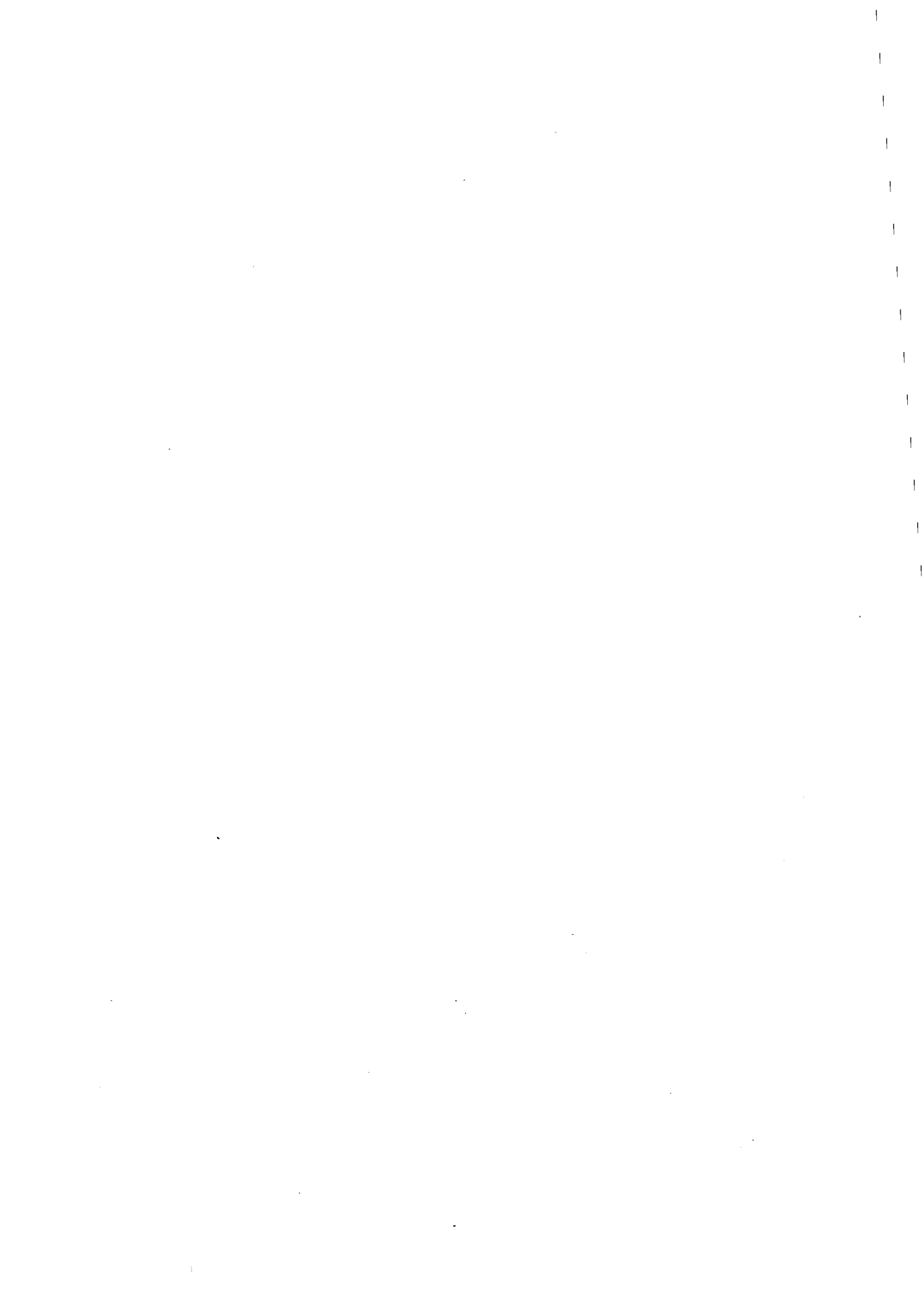
支部報編集部では会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。ホームページから投稿ができます。投稿ページは下記のURLからお気軽に！！

■ 支部報投稿 ■

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/re.c.htm>

目次	大図研京都セミナー2001.....1頁
	お知らせ.....1頁
	東京便りーその1ー.....2頁
	セミナーの発表者募集中!.....4頁
	第7回支部委員会報告.....5頁
	数珠つなぎ 第54回.....6頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで  
編集気付 (dkamr302@kyoto.zaq.ne.jp) takitaまで





# 東京便り - その 1 -

篠原俊夫

退職後一週間を経ずして、東京にやって来た。いうまでもなくこれと言った目的があるわけではなく、田舎者の東京見物と言うのが本当のところである。これまでゆっくり東京に滞在する機会が無く、下町歩き美術館巡りを気分の赴くままにやることなど叶わぬ夢であった。退職、すなわち毎日が日曜日ならどこでどう暮らしていようが、誰にも気兼ねする必要がない。そうだ、前々からゆっくり滞在できたらと思っていた東京暮らしが現実のものになる、たったそれだけの動機で東京にやって来た。

普通なら温泉に行つてのんびりすることで長年の勤めの垢を洗い落とし、新しい気分を出直したいということになるのだが、生憎、私は温泉が嫌いである。いや、温泉はいいのだが、温泉旅館が性に合わない。誰もいなければいいのだが、旅館の女将が出てきたり、仲居さんが出てきて挨拶されると応対に困ってしまうのである。さらに盛りだくさんな料理が苦手である。料理長が腕によりをかけて造った料理が不味いわけはないのだが、量が多すぎる。普段、粗食でしかもごく少量で満足している人間が旅に出たからと言って普段とまったく違う食生活は困るのである。よくよく貧乏性が身に付いている。

といわけで、はやる気持ちを抑えつつ東京にやって来て、ウイークリーマンションに入った翌日から、約40日間の東京生活に備えた、生活用品の買い出しから始めた。例えば、洗濯に必要な小物、自炊に必要なまな板、茶碗、大小の皿、湯飲み、コップ、洗剤、調味料、各種の食品等々である。どこで買うべきか考えたあげく、これまで一度覗いて見たいと思っていた百元ショップに出かけて見ようと思い立った。もし使用できるものであれば、ごく短期の滞在だから、特に品質にこだわる必要は無いように思ったからである。

百元ショップの所在は知らないが、池袋という土地柄から駅周辺を探せば必ず見つかるはずだと考えた。思った通り、池袋駅から5分も歩かぬ距離に百元ショップがあり、うまいことにユニクロもその2, 3軒さきにあった。結局、ユニクロに2度、百元ショップには3度も足を運んで必要最小限の生活用品を購入した。

誰もがやるように百元という価格はつい要りもしないものを買ってしまうことになった。どれも百元は安いというものばかりで、特に木製のまな板が百元というのには驚いた。いかにも薄っぺらな造りが百元ショップらしいところであるが、価格の割にはしっかりした品質である。皿なども大きさを問わず一律に百元で一通り揃えることができる。ただし、デザインについては決して上等というわけにはいかない。できるだけシンプルで目立たないものを選んで使うしかない。

百元ショップで購入して結局、使い物にならなかつたのがテフロン加工風の小型フライパンで、これで目玉焼きを焼いてみたところ、テフロン加工のはずがいきなりべったり卵が焦げ付き、洗ったらまだらにはげ落ちてしまった。やはり百元では無理な品物ということになるのだろう。結果的にフライパンは西武百貨店の無印良品コーナーでしっかりした

造りのテフロン加工のものを改めて購入した。千五百円だったが、さすがにそれだけの品質であることは見ただけで分かる。ついでにカップや文房具も何点か購入した。無印良品だとシンプルなデザインの良さが感じられる。百円ショップが切り捨ててしまっている部分である。ここで退職したとは言え、図書館員の習性で書店や図書館サービスになぞらえて、価格と品質の問題を考えてしまう。

古書店業界について言えば、例えば今、同業者や出版業者から壘壘を買っているブック・オフチェーンがある。この古書店チェーンでは、店員は全く古書についての知識を持たなくてもマニュアルに従って、機械的に本の買い取り、販売ができる。ある意味でこれは革命である。長年の経験によって、古書についての知識を身につけ、正しい古書の価格付けができることが業界に生きる条件であった時代がどうやら、過去のものになりつつあるようだ。少なくとも従来型の古書店と新時代型のマニュアル古書店の棲み分けが始まったというべきだろうか。

京都の三条京阪近くにあるブック・オフを覗いたことがあるだけなので、全面的な評価はできないのだが、見たところ高度な専門書は見あたらず、読み捨てる対象の小説、実用書、コミックの類、それに CD 中心の品揃えに見えた。従って、店の棚は古本屋特有の黒っぽい雰囲気はなく、明るい。これで間に合うし、気に入っている人も多いのだろうが、私は二度行く気にはならなかった。

図書館サービスも同じ事が言えるのではないか。東京滞在中に公共図書館もある程度見ておきたいと思っていたので、ウイークリーマンションの所在地から歩いて20分程の距離にある区立池袋図書館まで出かけてきた。区立図書館として平均的な図書館として評価するとすれば、地域住民のための図書館として可もなく不可もなくという印象を受けた。

ただし、これも図書館員の対応ではなく、書棚から受けた印象である。文芸書中心で専門書はほとんどない。それが必要な人は取り寄せるか、直接、都立中央図書館にでも行くようにとの考えであろう。あるいは、いっそ国会図書館なら何でも揃っていますから、地域密着型の区立図書館レベルで、高度の専門書は収集の対象外ですよということであろう。

それはそれでよく分かるし、不満もないがだったら、本当に読みたい本は自分で購入するし、なさそうだと思う本は中央図書館に直接出向いて探そうと思う。私ならよほど近所に住んでいるのでなければ、やはりこないことになる。だからと言って価値がない図書館というわけではない。それなりに需要があり、それを必要として人々の方が多いということなのである。気をつけなければいけないのは、最後にたよるべき中央図書館のレベルまで、区立図書館並の図書収集でお茶を濁すようなことになったら大変だということである。

ついでに東京の新本を扱う書店事情についていうと、これもこれから探索というところであるが、とりあえず池袋の巨大書店ジュンク堂に行ってきた。昨年一度来ているから、これで二度目である。実は最後となる3月の出張で東北大学に行った時、仙台のジュンク堂書店も行ったし、昨年秋の鹿児島大学出張の時は鹿児島ジュンク堂に行ってきた。関西地区のジュンク堂は大体知っているから、ジュンク堂については全国のチェーンを回った。

東京は池袋駅南口に近く聳えたつ9階建てのビルが偉容を誇る。品揃えはさすがというしかなく、レイアウトもいい。探している本のある辺りに直感的に導かれるようになっていく。同じ本が別の関連付けをされているような場所に展示されている。雑誌のバックナンバーの在庫および展示も行き届いている。これに中小の書店が対抗するのは難しいだろうと実感する。店員の対応もきびきびしていて気持ちがいいし、商品知識もそこそこありそうだ。ジュンク堂と言えども、正社員待遇の職員ばかりというわけにはいかないだろうか

ら、従業員の構成は多くのアルバイト、臨時職員を含んでいるはずである。しかし、サービスの質は劣っていないということなれば、どう考えたらいいのだろうか。今の大学図書館でアルバイト、非常勤職員の資質が優秀であるという事情に似ている。だからと言って、アルバイト、非常勤あるいは、派遣職員ばんざいとばかりは言っておれないだろう。

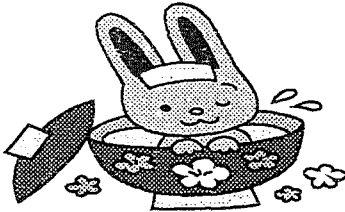
経営的な観点から言えば、安上がりの優秀な労働力は願ったり叶ったりだが、それは職場にとっても、優秀なアルバイト職員にとっても幸福な関係とは言えないからだ。誰が考えても正当な報酬を受けることなく、職業的な使命感だけで仕事に打ち込むことは困難なことだ。

書店、古書店、ファーストフード、図書館等々、サービスを提供する現場では経験に裏打ちされた職人気質の世界が急速に退潮して、仕事の高度のマニュアル化が進行している。

仕事内容の単純化、標準化、機械化によって正確なマニュアルが作られ、以前なら経験を積んだ（職人的な技術と知識を備えた）ベテラン職員しかなしえなかった仕事を、全く同じではないけれど、一見それに近いレベルで誰にもできるようになった。若くて教育水準の高い、安価な労働力がいかに高度であれ、マニュアルをマスターして即戦力として一人前に仕事をこなしてしまうのは当然のことである。

これは果たして進歩というべきだろうか。

百元ショップの製品と無印良品、古くから定評のある手作りの名品、それはよくみれば値段相応の品質になっている。ただどの製品も最低限の基準はクリアしているし、贅沢を言わなければ、あるいは微細な味わいと言った説明しにくい要素を捨てて、単に機能によって評価するなら、いずれも水準には達している。安い、うまい、早い図書館サービスというキャッチフレーズを、もしかしたら、これからの図書館員は至上の課題としなければならなくなるのだろうか。当然、それは図書館専門職の内実を問うことと同義であるし、私たちにつきつけられた最後の問いであると考えることができる。



(しのはら としお)

#### 大図研京都支部セミナー

「ネットワーク環境下における情報サービス」の発表者募集中!

1人あたり、発表時間は30分、質疑応答は20分で構成されます。

意欲ある方は奮って応募して下さい。

応募先は

井上雅人まで

立命館大学総合情報センター情報管理課

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel:075-465-8222 Fax:075-465-8252

E-mail:ino-mst@st.ritsumeai.ac.jp

大図研京都のホームページ URL

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

## 会費納入のお願い

2000年度までの会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。  
会費についての問い合わせは財政担当支部委員の金森孝之さん、又は  
最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

## 第回7京都支部委員会報告

日時：2001年4月10日（火）19:00 - 21:00  
場所：京都大学附属図書館3Fスタッフルーミング  
出席：井上、大館、金森、田北、呑海  
赤澤（オブザーバー）、  
吉田（京都大学工学研究科物理工学系図書室）オブザーバーとして参加！

### 【報告事項】

- 全国委員会（3月25日）
- ・会報の書評委員を公募する。
  - ・論文集23号を準備中
  - ・会費納入率61.2%
  - ・5月27日にライフサイクルから図書館を考える集い（中央大学）
  - ・6月2日にオープンカレッジ（日図協研修室）
  - ・全国大会（岡山）は8月25日から8月27日まで

### 【審議事項】

- 大図研京都セミナーについて
  - ・申込状況は各回とも30名前後である。各支部委員がもう少し、参加者を勧誘することになった。
  - ・書店関係者の参加勧誘も努める。
  - ・アンケートの原案は承認された。
  - ・アンケートの業約担当者は以下のようになった。

第1回	井上	第2回	大館	第3回	吉田
第4回	赤澤	第5回	呑海		
  - ・支部委員は当日の13時に会場に集合する。
  - ・懇親会は17時30分から始める。
  - ・懇親会費は5000円とする。
  - ・前回に決めた役割分担を一部変更した。
    - ・司会役にコーディネーターとしての性格を持たせ、大館と赤澤の2名で会の進行を進める。
    - ・受付を（田北、赤澤）から（田北、吉田）に変更する。
- 財政担当の変更  
大綱氏の転勤に伴い、大綱氏の担当していた財政を金森さんが引き継ぐことになりました。  
大綱さん、ご苦勞様でした！！
- 支部報について
  - ・前回の決定事項を確認した。
- 次回支部委員会 5月8日（火）



| 好評の連載コーナー!!

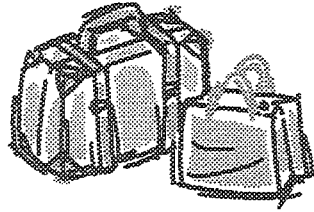
●大阪大学サイバーメディアセンター

むらかみ けんじ

●大図研京都数珠つなぎ 第54回

村上 健治 さん

## 大図研の夏と冬



私は出不精である。面倒臭がりでもある。従って極端に、というほどでもないが、旅行に出ることが少ない。宿の予約・交通機関の予約なんかできればたかくないている。

しかし、いざ旅行に出てみると、案外楽しんでいるようでもある。初めて行く町の中をやたら歩きたがるところは、久しぶりに散歩に出た犬と同じである。そして、道に迷うことが好きなようである。方向音痴ともいう。

そのような私にとって「バス」という乗り物は一番利用の難しい乗り物である。なぜかという、行く先がわかりにくいこと、経路地がわかりにくいこと等、地元の人には当たり前のことがわからないからである。そのため、初めての土地では、バスを敬遠しがちである。

しかし、旅行自体を楽しんでいるところを見ると、旅行をすること自体が嫌いなのではないのかもしれない。おそらく、旅にでる決心をするまでが大変なのであろう。ということは、私が旅行に出かけるためには、旅をすることに駆り立てる強い動機づけが必要である、ということになる。

そのような意味で大図研の集まりは、私にとっては旅行をするために必要な動機付けでもある。

大図研の集まりで定期的に参加しているものは、夏と冬にある。

夏の集まりといえば、全国大会である。全国大会の楽しみは多い。初めて行く土地・初めて会う人・初めて食べる料理・初めて飲むお酒・・・、もちろん大会の内容も多様で興味深いものがあるし、1年ぶりにお会いする方々との交流も含め、2泊3日の間にいろいろな意味でおみやげをいただくことができる。参加してみても損のない催しである。

冬の集まりといえば、大図研スキーである。スキーを始めたばかりの初心者ころから、これまでにいろいろなスキー場へいつか来た。大図研スキーは、一冬に何回かおこなわれているので、冬のスキーで顔を合わせる機会の方が夏の全国大会でお会いすることよりも多い人がいる。

大図研スキーは、北海道・長野・新潟などでおこなわれる。私はまだ、北海道へは行ったことがない。出不精であることが足をひっぱっているのかもしれない。しかし、長野・新潟あたりへは何回かいつか来た。最近ではスキー場よりも温泉の方に心がひかれるようになってきた。単なる加齢現象であろうか。

そのような形で自分を旅行に駆り立てているうちに、いつもあちこちを歩き回っている自分に気がつく。世間一般から見ると、このような私を出不精である、と認めてくれる人は少ないのかもしれない。

